

労福協 NEWS

2019.4 No.93

「広がれ、こども食堂の輪！ 全国ツアー in 徳島」開催

2018年12月16日（日）、四国大学にて「広がれ！こども食堂の輪！全国ツアーin徳島」を開催しました。こどもを中心とした様々な課題の解決に向けての取組みとして、こども食堂の活動を周知し、理解を深めるとともに、その輪を広げ、地域社会のネットワークをつくっていくことを目的としています。

日本全国で順次開催されており、徳島県でもぜひ開催をという声に背中を押され、実行委員会を立ち上げ、フードバンクとくしまが事務局を務めることになりました。全員がボランティアスタッフで、大きな行事を主催したこともなく、いろいろな方に相談し、ご協力を仰ぎ、助けて頂きながら、なんとか無事に開催することができました。



当日は、法政大学教授/社会活動家の湯浅誠先生が

「こども食堂が世の中を変える!?」と題し基調講演を行いました。先生のお話は大変好評で、もっと長くお話を聴きたかったという声が多く、特に、赤信号と黄信号の話は分かりやすくてよかったとの感想がたくさんありました。赤信号は行政の支援が入ったわかりやすい状態の貧困で、黄信号は、なかなか表面だけを見ていては分からない状態の貧困です。実は困っている黄信号の子どもたちを周囲が発見し、学校や地域等で連携し支え合って予防していくことが大切だというお話です。何度聴いても心に浸みるお話でした。

次に、「徳島にこども食堂の輪を広げよう!」というテーマで、県内の4名のこども食堂運営者によるパネルディスカッションを行い、運営の喜びや苦労、今後の課題などについて意見を述べ合いました。



全国ツアーを開催した反響は

大きく、様々な問い合わせがあったり、多額の寄付をいただいたりしました。今後は、各こども食堂とのゆるやかなネットワークを形成し、活動の連携や交流を深めていくとともに、居場所づくりや地域住民の交流拠点づくり等、子どもの未来に役立つ取り組みを支援する活動に努めて参ります。



「労福協NEWS」は、連合、労金、全労済、勤労者福祉ネットワーク、労館、労福協の6団体による「共同デスク編集委員会」を持ち発行しています。

労 福 協

労働者福祉向上のための 第1期労働者福祉推進員養成講座を 開催しました。

2018年8月25日から2019年1月26日までの5ヶ月間、関係団体の協力の下、労働者福祉推進員養成講座を開催しました。

この講座を開催した背景と目的は、労働組合員の意識の多様化や役員の若年化により、労働運動と労働者福祉運動が車の両輪という意識が薄れ、労働者福祉運動の比重が低下していることや、労働者福祉運動を共に推進し高め合う仲間としての関係を築くために、労働運動と労働者福祉運動の歴史に学び、その意義を再認識して労働組合運動の幅を広げ、労働者福祉事業団体の取り組みを学び、自らの生活設計を見直し豊かな人生を送ることに寄与するために開催しました。

主催は、連合徳島を始め、労働者福祉事業に携わる諸団体の6団体で構成する運営委員会で、講座は5ヶ月間で5回シリーズで開催し、参加者は労働組合員から労働者福祉事業団体職員など延べ260人を超える参加者で盛況のうちに開催することができました。

講師は、中央労福協の講師団をはじめ、賀川豊彦記念館の館長や生協や労働者福祉事業団体

が推薦する講師団・職員など、多種多様な構成で、様々な分野から有意義な話を聞けるセミナーとなりました。

参加者からは、「今まで知らなかったことを学べて良かった」「これからの活動に活かしたい」などの声が寄せられ、運営委員会では、今後より充実させて引き続き開催していくとしています。

第1回 ①労働運動・労働者福祉運動の現状と歴史

②労働運動と労働者福祉運動の社会的意義と役割

第2回 ①賀川豊彦の思想と活動について

②協同組合(生協)運動について

第3回 ①労働金庫と生活応援運動

②全労済と生活保障設計運動

第4回 ①働き方改革関連法について

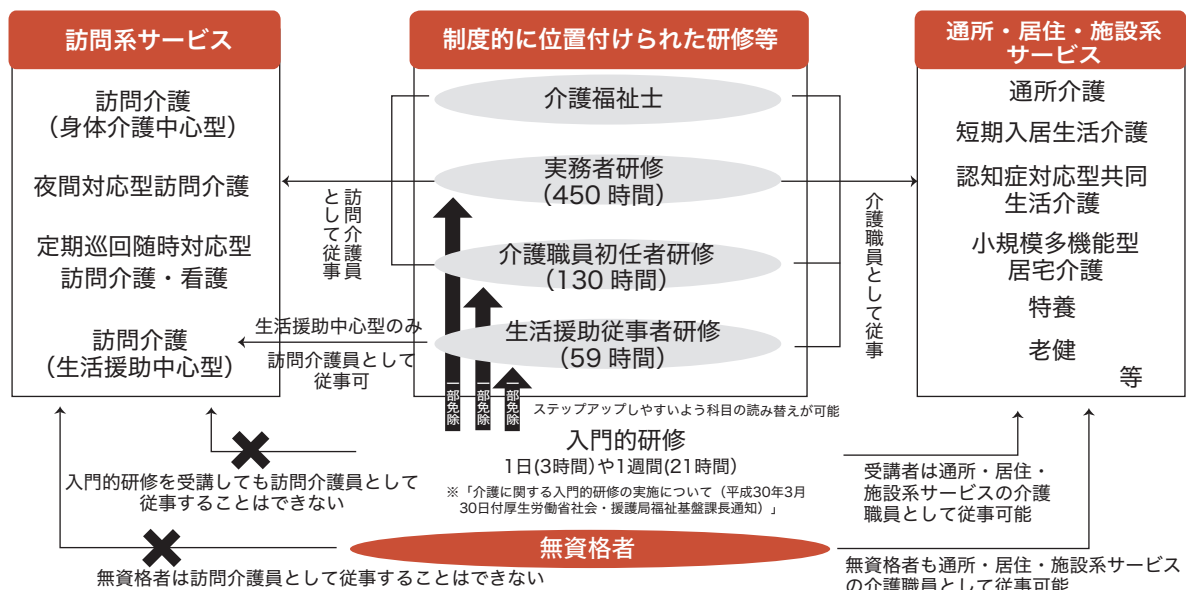
②(公財)勤労者福祉ネットワーク・(公社)労福協について

第5回 ①労働者福祉推進員の立場と役割



資格を取るならジョブカレッジとくしま

〈介護保険サービスと資格制度の位置付け〉



連 合

2019 Syuntoふれあいファミリーデー



県民と働く者の徳島フェスタ実行委員会、連合徳島、徳島県春闘共闘会議は2019年3月10日、あすたむらんど徳島で、2019 Syuntoふれあいファミリーデーを開催した。

本年度は天候が悪く、ジャンボパラソルでの開催となったが、連合徳島各構成組織の組合員や家族など824人（あすたむらんど徳島の入場者数1,077人）が参加した。

開会にあたり主催者を代表して、連合徳島森本会長から「2019春季生活闘争は、『今こそブレイクスルー！すべての労働者の処遇改善と働き方の見直し！』をスローガンに、政策・制度実現と労働諸条件改善に取り組んでいる。徳島県では中小企業で働く労働者が多く、非正規雇用労働者として働く方々の処遇改善は、経済を自律的に成長させるためにも不可欠である。職場で安心して働ける環境を築き上げるためにも、連合活動にご理解いただきたい。36協定に

関するアンケートクイズにもご参加をお願いする。」と挨拶。

続いて、連合徳島の活動紹介として、「アクション36」の映像と、連合徳島青年委員会による36協定に関するアンケートクイズとアクション36の飴を配布。

被災地支援大抽選会では、昨年の西日本豪雨で被害があった、愛媛県宇和島市の物産品である「デコボン」を景品にして、当選者70人に手渡された。

仮面ライダージオウショーでは、楽しみにしていた大勢の子どもたちの歓声がジャンボパラソルの会場に響き渡り、写真撮影会では家族との楽しい思い出を残すことができた。

労働相談コーナーでは、2件の相談（雇用保険の加入・労災の認定）があり、綿菓子・ドリンク販売コーナーでは女性委員会、青年委員会が対応。他にも特定非営利活動法人Creerのご協力をいただき、うどん・おむすび等の販売が行われた。



ろうきん

2018年度四国ろうきん「ピンクリボン運動」への寄付について

四国労働金庫は、社会貢献活動の一環として、「女性が健康で長く働くことができる社会づくり」に貢献するために、乳がんの早期発見・早期診断・早期治療の大切さを伝える「ピンクリボン運動」への支援に取り組んでいます。

2018年度の実行期間(2018年2月～2019年1月)が終了し、「ピンクリボン運動」を進めている下記の四国地区の公益財団法人日本対がん協会のグループ組織に寄付をすることといたしました。

徳島地区では、2019年3月18日に目録贈呈式を開催し「公益財団法人とくしま未来健康づくり機構」に下記の通り寄付金を贈呈いたしました。



記

寄付金額 合計 886,344 円

(2012年度からの累計金額 7,160,090 円)

地 区	寄付金額	寄 付 先	所在地
徳 島	162,650 円	公益財団法人 とくしま未来健康づくり機構	徳島市蔵本町
香 川	183,917 円	ピンクリボン かがわ県協議会	高松市郷東町
愛 媛	231,177 円	ピンクリボン えひめ協議会	松山市味酒町
高 知	308,600 円	公益財団法人 高知県総合保健協会	高知市棧橋通

他社でご利用中のローン金利を
半分にして借換えします



メリット①

数社で借りている債務を四国ろうきんに一本化ローン管理が容易に。

現状の借入残高を四国ろうきんのローンで一括返済。その後は四国ろうきんへの返済のみになります。

メリット②

他社の金利を半分にします。

ローン返済の負担が大幅に削減。

他社借入の残高総額の加重平均により金利を再設定。他社の金利を半減いたします。

働くあなたを応援したい
四国ろうきん

全 労 済

保障のことなら

全労済

全国労働者共済生活協同組合連合会

「全労済ぼうさいカフェ in 四国酒まつり 2019」開催報告

2019年2月23日(土)に三好市池田町にて、西部ライフサポートセンター全面協力のもと、防災イベントを開催しました。



1 開催日時 2019年2月23日(土) 11時~15時

2 開催場所 西部ライフサポートセンター駐車場

3 来店者数 約400人

4 展示内容

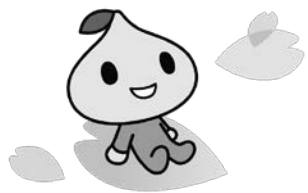
- ・非常食の試食(乾パン・ビスケット・ドロップ・えいようかん)
- ・パネル展示(住宅災害・津波)
- ・チラシ配布

5 実施報告

2019年2月23日に「全労済ぼうさいカフェ in 四国酒祭り 2019」へ出展いたしました。当日は天候もよく、多くの人に全労済ブースに寄っていただきました。非常食の試食体験を行い、昔からある乾パンだけではなく、ビスケットやクッキー、えいようかんなど小さいお子様でも食べやすい非常食も用意し、多くの方に試食いただきました。また、長期保存水や温めなくても食べれるカレーなど、展示物として用意しており、多くの方が関心を持っていました。

2018年は台風被害や豪雨、地震といった被害も多く、防災に関する意識も年々高まっています。非常食やパネル展示による被害の説明など、いつ災害が起こるかわからないため、事前準備が必要であることを改めて意識するイベントとなりました。

ほなけん安心! ええじょ! 全労済



全労済は、共済ならではの手頃な掛金で安心な毎日を応援します。

あなたの安心づくりをトータルサポート

くるまの保障

家族の保障

住まいの保障

窓口のスタッフがわからないこともわかりやすく、丁寧にご説明します。
皆さまにピッタリの保障を真心込めてサポートいたします。

窓口まで行けない…

家事や育児で外出できない…

そんな方には、訪問スタッフが
ご自宅や職場にお伺いします。
全労済の窓口までご連絡ください。

※お住まいのエリアによっては訪問できない場合があります。



勤労者福祉ネットワーク

◆モンゴル国との友好交流…研修生の受け入れ

勤労者福祉ネットワークでは、2019年度の重点課題のひとつに『“多文化共生社会”の序章の時代を迎え、モンゴルで環境・教育分野の課題に取り組むゾリグ財団のスタッフ短期研修の受け入れと交流・連携の開始』を掲げました。

この度の研修生の受け入れは、2019年3月1日から5月3日までの約2ヶ月間。当財団の取り組み、若者支援や就労支援などの課題について、また、労働者福祉の歴史や現在の取り組みなどを中心に、様々な分野の関連団体のご協力もいただきながら、研修を予定しています。

4月の入管法の改正をきっかけに、今後、私たちの日本社会が受け入れる外国人を、単なる「労働力」として捉えるのではなく、お互いを理解、尊重し合い、異文化交流を通じて相互理解を深めるための研修と位置づけています。

今回、私たちの財団とゾリグ財団は、この研修を通じて、友好交流協定の締結をめざしています。

両国の福祉、教育、環境、文化、芸術、経済など、幅広い分野において、相互交流の実現に努力し、友好関係を発展させるため、交流団の相互訪問や職員等の相互研修などを行うことを目的とします。

今後、日本とモンゴル両国民の友好と平和、アジアと世界の平和に貢献できるような協定とすべく、2019年7月の締結をめざし準備を進めています。



2019年3月5日 歓迎会にて



JTM 兼松代表より日本語テキストのプレゼント

◆コミュニティビジネスセミナー 2018「思いに花を咲かせよう! 4」

今年で4年目となる「コミュニティビジネスセミナー(徳島市・当財団主催)」を、1月16日より全4回、ふれあい健康館にて開催しました。「コミュニティビジネス」とは、地域の課題を住民が主体的に、ビジネスの手法を用いて解決する取り組みです。すでに起業し活躍されているゲストの方々の講演、ビジュアルファシリテーター・玉有朋子氏のファシリテーションによるフューチャーセッションを行いました。

受講生の方々の熱気がセミナー会場を包み、空き家の活用、子ども食堂の運営など、ひとりひとりが、地域の問題解決の「アイデア」「思い」を明確にしました。受講生同士のネットワークも広がり、今後たくさんの「思いの花」が開き、地域が活性化していく手ごたえを感じられるセミナーとなりました。



ビジュアルファシリテーター玉有朋子氏

くーぽん丸。2019

2つの特徴

① 多言語表示(英語・中国語)

“多文化共生社会”へ

- ・表紙、目次、使い方など基本情報の英語、中国語を併記しました。
- ・webサイトの情報に「ふりがな」を表示しました。

<http://trans.hiragana.jp/ruby/http://www.ponmaru.jp/>



② くーぽん丸。防災リンク集



いざという時のために

<http://ponmaru.jp/ponmarubousai2018/pondex.html>



三好市 ふれあい紅葉センター

2019年4月より

当財団が運営・管理いたします!!

リニューアル

オープニングイベントの開催を
予定しています。

詳細はホームページで!



〒771-2304 三好市三野町加茂野宮 1467
TEL:0883-77-2954

地域ライフサポートセンターの活動

徳島中央ライフサポートセンター

連合徳島・3地協合同防災植樹・学習会



- *と き 2019年2月11日(月) 10:00～
- *と ころ 海陽町大里海岸・南部防災館
- *主 催 連合徳島・南部地協・中央地協・西部地協
- *目 的 南海トラフ地震はおおよそ100～150年に一度の割合で発生していますが、地震本部によりますと「30年以内に震度6以上の大型地震の発生する確率は徳島は73%」となっています。徳島県は過去、地震や台風などで多くの尊い人命や財産に被害を受けています。昨年、南部地域協議会から「海陽町大里海岸の防災林の松林が枯れてきている状況により3地域協議会で植樹をしてはどうか」との呼びかけがあり、3地域協議会合同で昨年8月にプレ開催しました。

- *概 要 連合徳島と3地域協議会合同で



海陽町の大里海岸において連合徳島・3地協合同の防災植樹・研修会を開催し、約50人が参加しました。松枯れが進む大里海岸に防災に役立つクロマツ100本を植樹。その後南部防災館で災害に備えて今何をすべ

きか、電機や水の貯蓄設備など館内見学をしました。

障がい者のための運転免許講座(徳島講座)

2018年5月から始まった30回にわたる講座は2019年1月4日に修了式を迎えました。受講者6名中4名が合格し無事免許証を取得することができました。4人とも「あきらめず何度も何度も復習し頑張ってきてよかったです」と感激の弁を述べました。「免許を取れば本当に世界が広がります。事故に気をつけ様々な場所で活躍して下さい」と川越会長からの激励あいさつと拍手で終了しました。免許取得できなかった人もまた来年度も引き続き頑張りたいと思います。



徳島西部ライフサポートセンター

～全労済ぼうさいカフェ

in 四国酒まつり2019～



2月23日(土)に、全労済ぼうさいカフェin四国酒まつり2019が催されました。昨年と同じく、徳島西部ライフサポートセンター駐車場にて行い、非常食の試食や全労済のチラシを配布しました。天候も良く、昨年以上の人出でした。

非常食の試食では、乾パンやクッキーなど沢山の種類があり、長期保存できることにみなさん関心を寄せていました。

昨年は地震や豪雨など多くの災害が発生し、防災意識は年々と高まっています。事前の備え

が大事だと、改めて感じた一日となりました。

～地域貢献事業（スポーツ少年団支援）～

徳島西部ライフサポートセンターでは、地域貢献事業として、スポーツ少年団支援を行っています。



①第33回徳島県西部小学生バレーボール連盟春季大会(5/20)

②第13回東みよし町スポーツ少年団サッカー大会(10/7)

③第26回PHC杯少年サッカー大会(2/11) ④第2回阿波池田ライオンズクラブ旗争奪学童軟式野球大会(2/24)への後援をしました。

それぞれの大会で、子どもたちは日頃の練習の成果を十分に発揮し、好試合が繰り広げられました。

この活動を通じ、「徳島西部ライフサポートセンター」の名前を知っていただく機会も増えました。今後も支援を行い、次世代を担う子どもたちをサポートし、そして、さらに地域との繋がりを強いものにしていきたいと考えています。



徳島南部ライフサポートセンター

2018年度自動車運転免許講座 閉講式

2018年12月22日(土)、5月末から7ヶ月間30回にわたる、自動車運転免許取得特別講座の最終日を迎えました。

最後の講座に先立って閉講式が行われ、労福協川越会長から、「皆さん、7ヶ月という長い間、しっかりと学習を重ねられたことに、心から

敬意を表します。免許証を取得しますと、本当に世界が変わります。今まで協力をしてくれ、支えてく



ださった方々に感謝しながら、宝先生から教えていただいたことをしっかり復習して、ぜひ免許証を取ってください。頑張ってください。」とねぎらいと激励の挨拶がありました。

講師の宝先生からは、「今まで全然見たことのないような内容ばかりで最初は戸惑ったと思いますが、今回講習を受けて色々と道交法の内容の意味をよくわかってくれたと確信しています。皆さんなら大丈夫です。自動車学校に入校したら、自信を持って学科試験に十分に力を発揮して頑張ってください。そして免許証を取ったら今までの知識を生かせるように、優秀なドライバーとして充分活用してください。」と、免許取得に向けて温かいお言葉をいただきました。

生徒さんからは「時には厳しく、時には優しく、たまに笑わせてくれる先生が大好きです。」「何もわからず一から丁寧に問題を一つ一つくわいて教えていただき、とてもわかりやすかったです。ありがとうございました。」「もう終わりなのかと思うと残念ですが、今後も勉強に励みます。」と一人一人から講座の感想や講師の宝先生へのお礼が述べられ、みんなで記念撮影をして、最後の講座にのぞみました。

2018年度中、7名の方が免許を取得することができました。

皆さん、自動車学校への挑戦、自信を持って頑張ってください。

引き続き南部ライフサポートセンターは皆さんの努力が報われますよう、色々なサポートを続けていきます。



わーくびあ徳島

とくしま社会運動資料センター
第11回公開講座 -報告-

日時 2019年1月12日（土）

場所 ヒューマンわーくびあ徳島

一般社団法人徳島県労働福祉会館が運営する「とくしま社会運動資料センター」の第11回公開講座が、1月12日（土）、ヒューマンわーくびあ徳島5F大ホールにて開催されました。『セクハラ問題について考える -主に鳴門教育大教授セクハラ事件について-』と題した2時間の講座に、約100名の方が参加しました。

事件当時の担当弁護士であった大西聡弁護士による基調講演では、セクシャル・ハラスメントについての歴史的背景から、ハラスメントの定義、法律責任まで、詳細な解説がなされました。鳴門教育大学教授の事件については、木村清志法律事務所の勤務弁護士としてスタートした1年目に担当した



こと、類似案件に乏しいため学術論文を分析し理論構築を行ったこと、不法行為の立証が難しかったことなど話されました。

基調講演の後、当時の支援メンバーによるパネルディスカッションが行われました。事件当初、元大学院生から相談を引き受けた元参議院議員の乾晴美氏がコーディネーターとなり、支援団体の中心的存在であった連合徳島女性委員会の当時の委員長・磯田正江氏、連合徳島の書記担当であった東條恭子氏、基調講演に引き続いて大西弁護士、そして事件被害者であり元大学院生の女性の4名がパネリストとなり、当時の様子や本裁判の社会的意義について語りました。元大学院生は、「大学側も初めは隠蔽しようとする態度が見えた。もし



教授が誠意をもって謝ってくれていたら裁判には至らなかった。裁判を起こしたときは、やはり周りの人たちに理解して貰えないことが最も辛かった。最後まで支えてくれた支援者の方たちには本当に感謝している。」と述べられました。

最後に、藤原理事長より締めくくりの挨拶があり、閉会しました。

第12回公開講座 -報告-

日時 2019年3月16日（土）

場所 ヒューマンわーくびあ徳島

とくしま社会運動資料センターの第12回公開講座が3月16日、ヒューマンわーくびあ徳島において開催され、48名の方が参加しました。

資料センターでは2017年6月より、部落解放同盟徳島県連や徳島解放研究所から寄贈された約5千点の資料を基に研究者の協力を得て「部落史に関する協議」を進めて来ました。そして徳島における部落史年表（前近代編・近代編）の素案がまとまり、部落史・社会運動史関連講座を開催する運びとなりました。

冒頭、資料センターの久積センター長より「1年前より徳島の部落史と社会運動史について研究を行ってきた。それを形にするということで連続4回、計7コマの講座を開催します」と挨拶がありました。

1コマ目は徳島県立博物館副館長の長谷川賢二さんに「徳島の部落史研究・前近代編 -『部落史の見直し』と現状をめぐって-」というテーマで、2コマ目は国



際日本文化研究センター客員准教授の吉村智博さんに「近現代部落史研究の現在 -部落差別の歴史的把握はいかになされてきたか-」というテーマで、それぞれ約50分の講座を行って頂きました。

閉会に際し、労働福祉会館の藤原理事長より「今回を含めて4回の連続講座を報告書として取りまとめ、資料として残していきたい」と締めくくりの挨拶がありました。



平日、忙しい人のために
休日に相談できる
ところがあるんだって。
けっこう、いいよね。
だから、私も、ろうきん。

けっこう使える。
ろうきん

あなたと
わかちあう
次の一歩

ろうきん
アンバサダー
高梨 節

ろうきん



ZENROSAL NEWS

全労済
公式キャラクター
ピットくん

保障のことなら
全労済
全国労働者共済生活協同組合連合会

ほなけん安心!
ええじょ!全労済

全労済の
住まいる共済

火災共済・自然災害共済
風水害等給付金付火災共済・自然災害共済・個人賠償責任共済

全労済は、営利を目的としない保障の
生協として共済事業を営み、組合員の
皆さまの安心とゆとりある暮らしをめ
ざしています。出資金をお支払いいた
だいて組合員になれば、各種共済をご
利用いただけます。

全労済徳島推進本部
徳島県共済生活協同組合

発行 公益社団法人

徳島県労働者福祉協議会

徳島市昭和町3丁目35-1 (わーくびあ徳島 内)

TEL (088) 625-8387・FAX (088) 625-5113

URL <http://www.tokushima-rofuku.net/>

e-mail tokushima@rofuku.net

編集・発行人 川 越 敏 良

印刷者 (有)フォトプリント白石